

2024年6月26日開催

「第1回共生共創フォーラム 共に生きる社会を創る」

～学生の感想より～

◆「障害者でもサッカーができるだけまし」という発言があった事に対し、そういう時代があったのだとあくまで冷静にお話されていたのが印象に残っています。なんとなく感情的にとらえてしまいがちな部分ですが、そういったものほど感情に任せず、言葉の背景やそこからどうするのか、をしっかりと考えていかなくてはならないのだと気付かされました。お話の中で、昔と今でブラインドサッカーのプレイスタイルが変わったという事が一番の驚きでした。上限だと思っていた先にまだできることの可能性があるという事はとてつもない希望ですね。ブラサカに限らず、様々な事でこれはあてはまるのではないかと思います。

◆資本主義の中にある日本で、資本主義的ではないものが生まれ得ること。資本主義ではないものを広げるには、資本主義のルールに乗らないといけない矛盾。そんな場所だからこそ、生まれるものがあること。とにかくやってみることを大事にしたい。

◆10年前には、まだ障害者スポーツに偏見があったということに驚いた。多くの働きかけによって、現在のような形になっていったことがよくわかった。卒業生の高橋さんが、自分の将来について真剣に考え、色々なことに挑戦したからこそ、現在の職場で働いているというお話が印象的だった。

◆福澤さんの言葉に今日出合えて、ただただよかったです。おもしろがる精神や、冒険や苦悩のなかにいる時にこそ宗教と向き合えること、学園では一生かけて探求していける素材を身につけたというお話。そのどれもが賛同することばかりでした。高等科までではここまで自分の中に落とし込むことはできなかったなと思います。生のことばを伺えたことが本当によかったです。

◆生きるとは何かと真剣に考えることができた。特に人間の幸福とは何かと問いを立てた際の、自然の中で生きるという言葉がとても印象的に残った。また健全者はいないという言葉からこの一言ですくわれた気持ちになる人はどれほどいるだろうと考えた。もともと共働学舎については興味があったため実際のお話がきけて良かった。

◆福澤さんのお話は全体的に核心を突くものがすごく多かったと感じた。福澤さんがお話の中で自由学園の教育とはまさに「自分で作り、自分で見つける」とおっしゃっていてその通りだと感じた。結局自分がいくらい学校に入っていようと自分が学ぼうとする姿勢がない限りそれは学びに変わらないし、自分の成長にも繋がらないんだと感じた。松崎さんお話を似ていて自分から動いていく力そういうものが今の自分にとって大切なんだと感じた。生きるとは「冒険をする場所」であり、「苦しいから楽しいもの」で、とにかくなんでも楽しんでその一瞬一瞬をかみしめて楽しんで生きたいなと思った。人生を「楽しむ」ということで自分の本性、自分というものが分かるし、人とのかかわりが広がる。本当に福澤さんのお話は一つ一つに重みを感じ、その言葉を大切にしていかなければいけないと感じた。初日にしていい講演だった。

◆社会のシステムに完全には迎合せず、自分たちのやりたいことを貫くことで賛同する仲間を得、立場を築くということができんだということがわかり、勇気づけられました。

◆近年、社会では対等や多様性を尊重することが尊重されている。しかし、これはあくまで「理想的な社会の形」であって再現性や社会に浸透しているかといわれれば多くの課題を残している。私自身も、その抽象度の高さや再現性の低さから真に多様性を尊重し、それが実現できる社会のイメージを持つことはできなかった。しかし、今回登壇していただいた方達は、真の意味で多様性のある社会を実現しその実践的な活動を行った方であると考えた。行動をすることによって変化し、共に社会を作り出していく。その実現性を強く感じることができました。